まなびの総合エリアQ&A

Q まなびの総合エリアに所属する実務家教員についてもう少し説明して下さい。

A 本パンフレット３頁記載の「マネージャー」「ディレクター」「スーパーバイザー」としての役を担っています。いずれも秋田県の中学校長・義務教育課長，特別支援学校長・特別支援課長，高等学校長・教育次長として，秋田県の教育の中心現場での勤務経験者です。

Q 全国学力・学習状況調査において秋田県は4年連続好成績をおさめていますが，まなびプロジェクトはどのように関わっていますか？

A プロジェクト内では，この好成績の背景の解明も研究テーマの一つとして，取り組んでいます。

Q 学校の教育課題への対応や出前授業などは，どのような方が携わっているのですか？

A 実務家教員を含む教育実践研究支援センターのスタッフだけではなく，学部の全教員の中から依頼された内容に適任の方を派遣します。そのために，申込書には希望する内容について書いていただく事柄が多少あります。

Q エリアを訪問しての教育実践の相談はできますか。

A 対面型でも教育課題への対応を行う予定ですが，詳細については現在準備中です。あきた教職.netから申し込んでもらう予定です。

Q 出前授業や学校ボランティア派遣の申し込みはどうすればよいのですか。

A 「あきた教職.net http://gppts.cerp.akita-u.ac.jp/kyousyoku/」から申し込んで下さい。

Q 教員免許状の更新講習を行う部署ですか。

A 更新講習は，本学の教育推進課が担当していますので部署は異なります。

Q このエリアが所有する特徴的な資産は何ですか。

A 現在整備中ですが，学校教育にICTを活用するための研究機器，卓越した「あきたの授業」のビデオライブラリーを構築する計画です。

連絡先，アクセス

秋田大学教育文化学部　教育実践研究支援センター内

「まなびプロジェクト」実施委員会

〒010-8502 秋田市手形学園町 1-1　Tel:018-889-2700　Fax:018-889-3387

教育実践研究支援センター事務室　E-mail:manabi-office@cerp.akita-u.ac.jp

ホームページ（あきた教職 .net）：http://gppts.cerp.akita-u.ac.jp/kyousyoku/

アクセス：http://www.akita-u.ac.jp/honbu/access/ 記載の手形キャンパス・教育文化学部5号館隣り・教育実践研究支援センター内。南門から入るのが便利（徒歩のみ）。

特別経費（プロジェクト分）　平成22年度～24年度

◆ 高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実 ◆

「まなびの総合エリア」を養成・研修拠点とした統合型の教員養成

略称：まなびプロジェクト

本プロジェクトで行う主な事業

- 教員養成と現職研修を統合する「まなびエリア」の整備
- 学校現場への大学教員，教職志望学生の派遣
- ネットワークを介した教育情報の提供
- 実務経験が豊かな専任教員による教職実践演習の指導
- 卓越した授業・指導のライブラリ化と校内研修や教員研修への活用
- 普通学級における特別支援教育・指導方法の研究

秋田大学教育文化学部

http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/

三者のニーズに応えるため，「まなびの総合エリア」を養成･研修拠点とした統合型の教員養成を行います

学校現場のニーズ

- 保護者対応など新しい教育課題の表出
- いびつな年齢構成により知が伝わらない
- 小規模校・遠隔地では研修機会が少ない
- 教育現場に即した学校課題研究の必要性

大学教員のニーズ

- 卒業生の力量保障と卒後ケアの必要性
- 教育現場に根ざした学生指導・教育研究の推進
- 大学の持つ専門性を教育現場で活かしたい
- 新しい教育課題に現場と連携して取り組みたい

教職志望学生のニーズ

- 教育実習以外の場でも研鑽したい
- 採用時に即戦力となれる力量を身につけたい
- 大学で学んだ専門性を学校現場で活かしたい
- 教育現場に根ざした実践的な研究をしたい

本プロジェクトの特色

教師の資質・力量を向上するためには，大学における教員養成カリキュラムの充実と，教員採用後の現場における現職研修の充実が重要とされてきました。

しかし最近になって，教員養成と現職研修を別々に行うというよりも，むしろ統合することで，教師としての力量に関わる一貫した成長や発達が達成できるとされています。また，保護者への対応や特別支援を必要とする子どもの増加など，新しい教育課題にも対応できる一層の力量が求められてきています。

本プロジェクトでは，複数の実務家教員を一つのエリアに配置して学生の教育を行うとともに，特に臨時的に採用された教員に対して大学・附属校園を活用して現職研修を実施するなど，これまでの「養成は大学で，研修は採用者が」とは一線を画す，教員養成と教職研修の垣根を低くした統合型の教員養成を行うことを特色としています。

まなびプロジェクトとは

「学びの統合マネージャー：卓越した教職体験を教育相談に活用できる教員」，「クロスオーバー・ディレクター：普通教育と特別支援教育の両者に卓越した教師力を有し，学生の教職演習や現職の教員研修に活用する教員」，「伝承・創造スーパーバイザー：秋田の学力・教師力を研究してモデル化し，学生の教師体験教育に活用する教員」と命名する三名の実務家教員（特任，客員教授）を配置して記載の任にあたり，また学部教員と連帯することにより，その相乗効果をもって教師教育と現職研修を推進する組織場，を指します。なお，その物理的な場を本学部の教育実践研究支援センター内に置いています。またこのエリアは，「あきた教職 .net」というネットワークを介して学生や県内外の教員が接続できるネット環境の場です。

プロジェクトで行うこと

1. 豊かなまなびの支援……学校や地域における教育課題解決に向けた支援を行います。
2. 学校への大学教員の派遣……諸学校への出前授業の講師，学校内における教員の研修，地域における授業・教育研究等の推進アドバイザーとして，大学教員を派遣します。
3. 学校教育課題への対応……教科書・指導書・ビデオライブラリ等の学習環境を整備して教育・研修に提供し，学校現場における教育課題の解決を支援する体制を整えます。
4. 学校ボランティアの派遣……小中学校においてボランティアを行う学生を派遣します。
5. 「あきた教職 .net」の構築と活用……インターネットを活用して，プロジェクトの運営に係る各種情報の提供にあたります。
6. 「教職実践演習」の試行……教師力をより高めるための教育内容について研究を行い，演習授業を行います。
7. 特別な支援を必要としている児童生徒への対応……普通学級の中で指導を行うための方法について研究し，大学教育・現職研修の場で実践的な指導を行います。
8. オープン研修会……附属学校園等を活用して現職教員（特に研修の場を求める臨時採用教員）に対する教育方法技術に関する研修を行います。
9. 公開シンポジウムやフォーラム…プロジェクトの成果について広く公開します。